

2026年1月24日(土曜日)

図書新聞

3720号

〒108-0075東京都港区田町3-15-1
 図書新聞編集部
 TEL 03-6424-0111 FAX 03-6424-0112
 〒104-0011東京都中央区本町2-3-27
 本紙編集部 TEL 03-6424-0111 FAX 03-6424-0112
 〒100-0001東京都千代田区千代田2-1-1
 本紙編集部 TEL 03-6424-0111 FAX 03-6424-0112

定価300円
(本体273円)

発行 久松出版

書評をつなぐ
 読書コミュニティ

本が大好き!
HONOSUKI

www.honosuki.jp

連載

「記憶の櫃」の内奥に、言語道断の「空無」・映像的形象の彼方を探る
 水野千依著『記憶の櫃——フラ・アンジェリコと形象』(名古屋大学出版会)への道しるべ

Arca Memoriae: Fra Angelico and Figuræ

の 隅 京

稀賀繁美
 名古屋大学文学部研究センター
 名古屋大学文学部教授

これが第三点に通ずる。
 「神の似姿」*imago Dei*が
 結局のところ「まやかし」
 でしかないとすれば、その
 探求は必然的に表象*image*
 の彼方へと突き抜ける。こ
 れは日本でも辻成史らがピ
 ザンチン圖像の研究で追求
 してきた論点だが、本書は
 「肯定神学」*kataphasis*と
 「否定神学」*apophasis*との
 対立(pp.385-6)を「無」に止
 揚し、擬ディオニシオスの
 『天上位階論』に依拠しつ
 つ「上昇」と「下降」とを
 表裏一体に捉える見地から
 「神の闇の光」に肉薄する
 (p.388)。

その妙技は本書最後にフ
 ィレンツェのサン・マルコ
 修道院の壁画の实地調査を
 踏まえた議論で周到に展開
 される。製作技法や媒体の
 物性に及ぶその考察は「抽
 象・除去」*ablatio/aphaeresis*
 (p.11)が「無形象」の神
 秘へと実体変化*Transsub-*
*stantiation*を招来する「清
 浄」へと展開され、それが
 信仰の証としての無垢との
 接触による摩滅にまで昇華
 される(第IV部第3章)。

だがその変容の現場に降
 り立ち、本書の解明の到達
 点*scopus*の彼方を鳥瞰・眺
 望*kataskopos* (p.228)する
 「理論的＝観想」の愉悅は、
 読者各位に委ねたい。もと
 よりそれが、不適格な評者
 としての身分相応な引け
 時、となるのだから。
 ＊水野千依著『記憶の櫃—
 フラ・アンジェリコと形
 象』名古屋大学出版会、1
 月20日刊、本体8000円

καταφάβας
 ἀπόφαβας
 καταόκνητοι

思

考

「上昇」は実際には自己の
 内面へと沈潜する「下降」
 だと付け加える (p.288)。
 これはユダヤ神秘主義にも
 通じる意義だが (p.186)、
 さらにはイスラーム神秘主
 義の「内奥への沈潜」、さ
 らには日本ならば空海の真
 言密教の基礎にも通底す
 る。「法は元より言無けれ
 ど言なくして顯れず、真如
 は色を絶すれども色を待っ
 てこれを悟る」。そしてそ
 のための方便こそが、灌頂
 と曼荼羅への参入なのだけ
 ら。

第二にこのフーゴはヴェ
 ルチェッリの写本群の素描
 を「ミッシング・リンク」
 として、オピキヌス・デ・
 カニストリスに接続される
 (第III部3章)。ここには
 没後に異端宣告されたフィ
 オーレのヨアキムによる
 『ヨハネ黙示録』解釈も絡
 むが、(p.338)、カニストリ
 スには地中海を囲む地形を
 擬人像と重ね合わせた特異
 な圖像が知られる。今日で
 いう統合失調症の病跡は評
 者には明らかと思えるが
 (p.354-6)、ヴェネチアに
 アドリア海との交合とも母
 胎からの出産とも見える画
 面が重ねあわせられ、そこに
 自身が添えた銘文には「精
 神的割礼」による「秘蹟」
 が刻まれる。

著者はここに神の啓示を
 映像に幻視した人間の営み
 の臨界を捉え、その錯綜の
 背後に不可視の「隠れたる
 神」を幻視する聖職者の狂
 おしい切望の形象化を見る。
 拙見では究極の神学的
 希求と精神疾患とは表裏一
 体であり、所謂*Art brut*に
 こそ、原罪以前への神祕恩
 寵への通路も開きうる。

第I部、フラ・アンジェ
 リコとその工房による「銀
 器収納棚」(ca.1450-52)の
 分析では、円環や樹状系譜
 図、聖処の七枝の燭台や幕
 屋、方形格子や一覧表ダイ
 アグラムといった意匠が詳
 細に探求される。だが魔法
 陣や迷路に仮託され、とも
 すれば神秘的象徴の解釈に
 混入しがちな想像力の無軌
 道な跳梁は、慎重に回避さ
 れる。「イメージの歴史人
 類学」を志向する本書が扱
 う「睿智の建築」に関わる
 造形遺品は膨大な数に登
 り、分析に動員されるギリ
 シア語彙、ラテン語銘文を
 はじめとする神学関係の緻
 密な文献的学識には圧倒さ
 れる。評者には、遺憾なが
 らその詳細な分析の全容を
 評定する力量はない。

以下、初歩的な三点に絞
 り、評者の側の異端の脱線
 をも辞さず、本書の射程の
 一端に触れたい。

まず、パリの神学者サン
 ・ヴィクトールのフーゴ
 (ca.1096-1149)はノアの
 方舟に信仰の深化の階梯を
 託す。もとより神＝創造主
 の領域は可視的な形象の領
 域を超える。通常「想像」と
 訳される*imaginatio*は*image*
 すなわち似像に頼る限りで
 「表象」であり (p.278)、
 映像感覚に依存する。そこ
 に働く知による理解*intelli-*
*gentia*の彼方に理性*ratio*の
 領域がある。これも現在な
 ら「思弁」などと訳される
 観照*speculatio*は語源に照
 らせばなお視覚に依存する
 が、そこから脱却すると真
 の「観想」*contemplatio*即
 ち*theoria*に至る (p.287)。

だがここで彼は、魂は可
 視の微や類似による導きな
 くしては観想への上昇も覚
 束ない、と説く (p.281)。
 と同時にこの「至高」への

図書新聞

櫃(ひつ)は長櫃のように
 方形の箱を意味する。かつ
 てハリウッド映画に*Raid-*
ers of the Lost Ark (1981)
 があった。邦訳の副題には
 「失われたアーク《聖櫃》」
 とあり、ハリソン・フォード
 演じる考古学者がその秘
 密への侵入者の役回りだっ
 た。聖櫃は主がモーセに託
 した十戒を刻んだ石板を取
 める聖約の箱。旧約・新約
 のユダヤ・キリスト教世界
 の根源をなす神祕を宿した
 存在となる。創世記に戻る
 ならArcaはノアの方舟でも
 あり、世界創造の奇蹟を集
 約する聖典の神祕、神の真
 理への道しるべ、予型の比
 喩、信仰の礎ともなる。

本書『記憶の櫃——フラ
 ・アンジェリコと形象』は
 壮大な構想のもと詳細な学
 知と情報を束ねた、驚嘆に
 値する達成を見せる。著者
 は西方キリスト教世界の信
 仰実践を支えつつその営み
 のなかで培われた特異な
 「形象」*figura*を縦横かつ
 徹底的に比較検討し、そこ
 に孕まれて今日まで欧米の
 先行研究でもなお十分には
 解き明かされてこなかった
 多くの謎に、果敢に挑む。

その概要は序章に的確に
 要約されているが、記憶術
 から瞑想や祈禱の作法、隱
 喩として建築から、心の内
 奥に描く神の国の光景、観
 想の道*ductus*、表象を拒む
 神祕の示唆に至るまでの話
 題を周到に扱う。